

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

平成27年10月
中南米局中米カリブ課

1 設置の経緯・実績

- (1) 1971年、日墨両国政府は、メキシコのエチェベリア大統領（当時）が打ち出した構想に基づき、両国の青年を互いに留学させ、両国間の相互理解と友好親善を増進することを目的に、日墨研修生・学生等交流計画（日墨交流計画）をスタートした。以来、同計画は、日墨両国の相互理解及び友好のためのシンボリック事業として、各界で活躍する多くの人材を輩出し、両国関係にとどまらず、日本と中南米の交流を支える力となってきた。
- 2015年8月末までに42回実施され、これまでの研修実績は、双方合計で4,200名を超える。現在は、毎年双方50名ずつの枠で実施。
- (2) 2010年以降、「戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画」という名称の下、これまでの成果も踏まえ、より両国の現在のニーズを反映する内容となった。

【参考】

21世紀における戦略的グローバル・パートナーシップ及び経済成長促進に関する日本・メキシコ共同声明(2010年2月発表)：

http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mexico/visit/1002_ks.html

2 実施内容

- (1) コース内容：

長期コース（約1年間）

メキシコ国内の大学、大学院等における専門科目又はスペイン語を受講する。なお、専門科目の受講にあたっては、両国の戦略的グローバル・パートナーシップの強化に資する専門分野を専攻することが推奨される。

短期コース（約2週間）

政府・公的機関、研究機関等において、専門分野にかかる講義の受講、関係施設の視察等を行う。2014年度は、熱帯果樹栽培コース、遺伝子資源コース、バイオエネルギーコース、海洋保護区管理コースを実施。

- (2) 待遇：

往復旅費、派遣期間中の一定の滞在経費をメキシコ政府が負担。授業料、講義料等は免除。

- (3) 選考：

日本側で、選考試験（書類審査、筆記試験（コースによる）、面接等）により候補者を選定し、メキシコ側が受入を決定。（*コースによっては中央省庁、公的機関、姉妹都市等からの推薦枠あり。）

3 意義・評価

- (1) 日墨両国の戦略的グローバル・パートナーシップの強化に貢献出来るような若手人材の育成。
- (2) 日墨友好の絆の強化に大きく貢献。
- (3) 我が国におけるメキシコ、中南米研究及びスペイン語研究のレベルの向上に貢献。
- (4) メキシコのみならず中南米諸国全般で、経済その他の分野の第一線で活躍する人材を養成。
- (5) 将来を担う若い世代の人々に、メキシコ・中南米の異文化・社会を直接体験しつつ勉強する機会を提供。
- (了)